

IUHW

vol. **59**
January
2005

The gazette of International University of Health and Welfare

発行：学校法人国際医療福祉大学
編集：広報委員会 ☎0287-24-3000
ホームページアドレス：http://www.iuhw.ac.jp



特集 1 「新春に語る 2005」

国際医療福祉大学理事長 **高木邦格** 国際医療福祉大学学長 **谷修一** 国際医療福祉大学大学院院長 **開原成允**

特集 2

今春開設 薬学部・リハビリテーション学部 学部長(学科長)が語る抱負と展望

特集 3 第9回 学長杯スピーチコンテスト

The Ninth President Trophy Speech Contest -Poetry Recitation Contest -

◆連載エッセイ「映画の心と眼」第3回

映画祭への想い =文化遺産の継承=

客員教授 諏訪 淳



Topics

医療経営管理学科の学生が学会発表／診療情報管理士試験結果報告／とちぎ大学連携サテライトオフィス主催学生発表会で本学参加者全員が入賞／理学療法学科第七期生の卒業研究発表会開催／第一回臨床試験福岡セミナー開催／私学会議開催／医療福祉学科卒業論文発表会／看護学科公開学習会シンポジウム「子育てと危機—子供とどう向き合うか—」開催／国際医療福祉大学 特別後援「よみうり医療福祉フォーラム」開催／第3回医療経営戦略セミナー開催／二〇〇五年 スペシャルオリンピックス長野大会に向けたトーチランに本学学生がボランティア参加／平成十六年度 大学院研究報告会(博士課程一、二年生)開催／新潟県中越地震ボランティア活動／多目的施設の名称が「那須アスリーナ」に決定／国際医療福祉大学クリニック言語聴覚センターでミニセミナーを開催／国際交流親善パーティー開催

トーチランに随走者としてボランティア参加した小口陽子さん(中央・ST3年)、山口美乃里さん(右端・ST3年)

新春に語る 二〇〇五

国際医療福祉大学理事長 高木邦格



開学から十周年を迎えるにあたっての感想をお聞きください

国際医療福祉大学は医師以外の医療福祉専門職の地位の向上と、医療の高度化に対応できる人材の育成を目指して設立いたしました。多々反省はございますが、当初の目的に近づきつつあるのではないかと感じています。大学院では昨年、博士課程の第一期生が修了し、東北大学の教授に就任された方や、韓国に帰国し、言語聴覚の分野で指導者として活躍なさっている方もいらっしゃいます。そのようなことから一つの区切りになったと思います。

開学以来、常に新しいことに取り組まれ、昨年は乃木坂スクールも開講されました。

これから十八歳人口が減少していく中で、大学の果たす役割も変わってくるのではないかと考えております。そこで東京サテライトキャンパスで医療関係に従事する社会人向けの教育として開講いたしました。各分野の多くの方が受講され大変好評をいただいております。

大学院では臨床試験研究分野も開設されました。

薬の治験は非常に大切な分野なのですが、日本ではこれまで片隅に追いやられておりました。その様な状況を是正するため、大学院修士課程において日本で初めての治験コーディネーター養成を目指した臨床試験研究分野を開設いたしました。社会の必要性と合致し、全国の治験に興味のある方々が、東京・熱海・栃木・福岡で多数受講していらっしゃいます。

開学十周年を前に、関連法人まとめたグループ名称を決められたそうですが。

国際医療福祉大学と関係の深い施設や法人として、一〇〇床以上の病院を運営する九州の高邦会、東京の山王病院を運営する順和会などが多数あります。グループとしては今までも適宜協力してまいりましたが、グループ全体として職員数は現在五〇〇〇人を超え、大学・大学院・専門学校の学生数も六〇〇人以上となり、合わせて一万人を上回る方々が集まる団体に成長いたしました。そこで、何らかのグループ名称を決めた方がいいとの声が出てきたため、日本語名「国際医療福祉大学・高邦会グループ」、英語名「IHW Group」という名称で運営していくことにいたしました。国際医療福祉大学の「人間中心の」「社会に開かれた」「国際性を目指し」、そして「ともに生きる社会」を実現するという理念と、高邦会の「命の尊厳」「命の平等」という理念を合わせ、医療福祉の分野で社会に貢献してまいりたいと心を新たにしております。

四月に薬学部が開設いたしますね。今までの薬学教育は座学中心でしたが、



国際医療福祉大学 学長 谷修一

開学十年を迎えるにあたって、学長としての思いをお聞かせください。

十年というのは一つの節目の年だと思っています。本学は、日本で初めての「コ・メディカル養成の四年制総合大学」としてスタートし、専門職の質の向上を目指すとともに、将来の指導者を育成するといった大きな目標を持って歩んでまいりました。今年で開学十年を迎えますが、この間、当初の目標に向かって順調に発展してきたと評価しています。

二〇〇〇年に介護保険制度が導入され、コ・メディカルの地位や、コ・メディカルへの期待の大きさも変わってきたのではないのでしょうか。

介護保険制度は画期的な制度ですが、日本の医療福祉制度の一部にすぎません。この制度によってチームケアが認識されるようになってきましたが、本学は、従来の医師を中心とした医療・福祉から、それぞれのスペシャリストがチームを組み、協力してケアにあたるチーム医療・福祉の伸展を目指してきました。そのことは間違っていないかと思っています。

四月に開設する薬学部についてお話しただけですか。

これまでの薬学部は、薬の開発・研究

社会では、病院の誤薬・投与ミスなどが問題となっており、臨床に強い薬剤師への要望が高まっております。今年の入学生は従来どおり四年制ですが、来年は六年制へ移行し、延長された二年間の大半は、病院や調剤薬局での臨床実習に充てられます。本学のように、多数の実習施設を持つ薬学部は、医学部を持つ薬学部以外にはなく、こうした面でも教育環境が整っていると考えられるのではないのでしょうか。教授陣も、前東京大学医学部教授の伊賀先生を中心に、企業の第一線で活躍されていた方や、医学部で薬理学を教えていた方などを迎え、非常にバランスが取れております。

福岡県大川市にはリハビリテーション学部が開設されますが。

隣接する柳川市では、福岡県で最初の理学療法士、作業療法士、言語聴覚士を養成する専門学校である、柳川リハビリテーション学院を運営しており、福岡県のリハビリテーション分野への人材の供給に大きな役割を果たしてまいりましたが、医療技術の高度化に対応するにはこの分野での大学教育も不可欠なため、リハビリテーション学部を開設することにいたしました。九州初の理学療法、作業療法を両科を持つ四年制私立大学が誕生することになります。大田原本校では、理学療法士の国家資格試験合格率は六年連続一〇〇%を上げ、リハビリテーション分野の教育は評価をいただいております。福岡だけでなく九州全体の指導的な立場となる大学にするべく努めてまいります。

開校に伴い、高邦会高木病院、柳川リハビリテーション病院が、大学の臨床医学研究センターとして指定されました。関東では、山王病院や国際医療福祉病院

「総合力を活かして更なる発展を！」

国際医療福祉大学大学院院長 開原成允



昨年は、本学大学院にとって悲しい出来事がありました。初代の大学院院長であった初山泰弘先生が十月十三日にご逝去になったことです。今日の大学院があるのも初山先生のご努力があったからです。ここに謹んで哀悼をお祈りいたします。

昨年度の平成十六年度からは、大学院は修士課程に臨床試験研究分野、博士課程に医療福祉経営学及び医療福祉学の三分野を新たに開設しました。新しい分野を開くと共に懸案であった医療福祉学部

また、昨年度から新たに「一般公開の生涯学習コース」である、「乃木坂スクール」を開校し好評でした。特に、後期の「看護キャリア開発」、「理学療法士のバックアップ」、「個人情報保護」などのコースは定員を超える申し込みがあり、毎回夜遅くまで受講生が熱心に勉強してまいりました。遠隔授業システムも、四月から新しく三系統になり、熱海や九州の学習環境が著しく改善しました。

このように本学大学院も順調に発展し

などが指定されております。臨床医学研究センターになると、本学の教員をその施設に派遣できたり、施設の先生方に教授や助教になっていただく事ができます。施設では学生の教育を行い学生と一緒に研究していきます。学生は質の高い臨床実習を受けることができます。

3月には、東京に新しい附属病院が開設されるそうです。

日本たばこ産業（JTI）から、二九一床を持つ三田の名門病院「東京専売病院」を国際医療福祉大学で引き継いでさらに発展させていたいただいたお話がありました。薬学部を始め、各学部の実習施設として活用でき、また、教育と研究の拠点が東京にあることで大学を益々発展させることが出来ると思え継承させていただくことにいたしました。脳外科、整形外科、リハビリテーション部門の強化と、がん拠点病院としてのコンセプトを考えております。山王病院、山王メディカルプラザ、附属熱海病院との病棟連携を図り、大学附属病院としての質の高い医療を実践してまいります。

今年には薬学部・リハビリテーション学部

飛躍し続けるIHWグループとして今後とも期待しています。

（本稿は医療福祉チャンネル74、国際医療福祉大学アワーより転載したものです）

てきてはいますが、一方で世の中には新しい大学院が多く誕生するようにもなりました。本学大学院が他の大学に負けな

平成十七年度には、この特徴を更に活かして、修士課程の中に「医療福祉ジャーナリズム」と「生殖補助医療胚培養」の分野を開設することになりました。また、乃木坂スクールも、「患者に学ぶ」という患者さんを講師にしたコースや「臨床心理」のコースも企画されています。

本学十周年を迎える年にあたって、大学院も今年も更なる発展をすることを誓って年頭のご挨拶とします。

今春開設

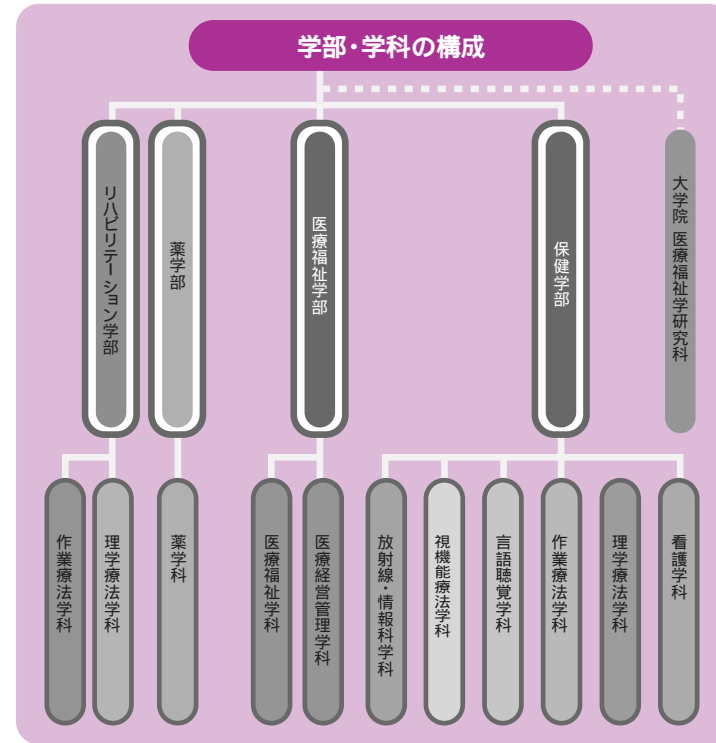
薬学部・リハビリテーション学部

学部長(学科長)が語る 抱負と展望

新学部開設

開学十周年を迎える本学は、四月、大田原本校に薬学部、福岡県大川市にリハビリテーション学部を開設、四学部十一学科へとさらなる飛躍の年を迎える。

新学部開設を控え、新入学生を受け入れ準備が着々と進んでいる両学部長と学科長に開設へ向けた抱負、将来の展望を語っていただいた。



大学院の修士課程では、新分野として生殖補助医療胚培養・医療福祉ジャーナリズム分野が開設する。詳しくは大学院ホームページをご覧ください。

リハビリテーション学部長 太田善郎教授



プロフィール
 九州大学医学部卒業。愛媛大学医学部助教授(内科学)を経て、昭和五十七年佐賀県立好生館内科医長に就任。平成八年同館館長。現在、佐賀県総合保健協会専務理事。地元・佐賀のラジオ局では、パーソナリティも務め、人気を集めている。
 専門分野：内科学他。
 担当科目：内科学、老年学他

リハビリテーション学部は、四月の開学に向け、学生の受け入れ準備も大詰めを迎えています。福岡県大川市に建設中のキャンパスは、大学の臨床医学研究センターに認定された高木病院に隣接しており、表通りに面した地上四階建て講義実習棟及び地上三階建て図書館講義棟の工事は、第一期となる理学療法学科四〇名、作業療法学科四〇名を受け入れるべく二月末の完成を目指し、順調に進んでおります。

昨年十二月十九日、リハビリテーション学部の入学試験として、社会人特別選抜入学試験が福岡市内で実施されました。私も、当日試験会場に立ち会い、特別の緊張感を味わうと共に、受験生の期待を裏切らないような大学を作っていかなければならないという使命を再認識しております。

栃木本校は開校して今年で十年、様々

な実績が社会的にも高く評価されております。新しくスタートするリハビリテーション学部は、理学療法・作業療法の両学科を併せ持つ九州で初めての私立四年制大学で、医療福祉を担う新しい人材教育に取り組む機関としてその役割は大きく、また実績ある大学ならではの教育体制として基礎医学分野・臨床教育分野での教育に特に力を入れてまいります。

充実した施設での基礎教育に加え、臨床医学研究センターとして指定された高木病院、柳川リハビリテーション病院、その他関連の病院・福祉施設での臨床実習を重視したカリキュラムを両学科で整備し、医療人としてチーム医療に貢献出来る人間性、社会性、そして国際性豊かな全人教育に加え、即戦力として社会に貢献できるような教育を行い、西日本地域の医療・福祉分野の人材育成の拠点を目指してまいります。

薬学部長 伊賀立二教授



プロフィール
 東京大学大学院薬学系研究科博士課程修了、東京大学名誉教授、前東京大学医学部教授・附属病院薬剤部長、日本薬剤師会副会長、日本医療薬学会理事。
 専門分野：臨床薬理学、臨床薬物動態学
 担当科目：薬学概論、薬理学、臨床薬物動態学

昨年十一月三十日付けで正式に文科省より開設認可をいただきました薬学部では、四月の開設に向けての準備を鋭意進めており、大田原キャンパス内の大学院棟(棟)の並びに建設中のキャンパスでは最も高い建物となる六階建ての薬学部棟の真新しい白い姿をご覧いただけます。現在は内装工事が進められており、順調に進みますと二月には予定どおり竣工の運びとなります。

北関東初の薬学部は、地域医療における薬剤師不足の解消に貢献することはもとより、既設の医療機関や医薬品産業との連携によって、地域医療の活性化に大きな役割を果たすことが期待されます。

新しい薬学部は、六年制の薬学教育にも対応したカリキュラムを用意いたしております。特に重視される臨床実習に関するしましては、三階のフロアーを占める

また、卒後の多様な進路選択に合わせ、創薬や、地域医療等に貢献できる人材を養成すべく、ゲノム創薬科学から製剤設計、臨床試験、医療経済、MR実践論、保険薬局論なども学べるカリキュラムを用意するとともに、人間性・社会性・国際性豊かな薬剤師としてコミュニケーション力を兼ね備えた、時代の要請に応える新しい薬学教育を目指してまいります。

理学療法学科長 田原弘幸教授



プロフィール
 福岡県出身。医学博士。労働福祉事業団九州リハビリテーション大学卒業。佐賀大学大学院教育学研究科修士課程修了。九州各地の専門学校・大学で教鞭をとる。平成十三年長崎大学医学部保健学科教授。専門分野：小児理学療法。担当科目：人間発達学、リハビリテーション概論、理学療法概論他

我が国では、一九六三年に理学療法士教育が開始された。九州では、平成十六年十月現在、大学・専門学校合わせて二八校、約一五〇〇名の入学定員で教育が行われている。その黎明期には、専門科目の教官は殆どが外国人で、必然的に英語による講義であった。彼らの講義に対する態度はきわめて厳しく、講義が始まると、僅か数分の遅刻でも教室に入ることは許されなかった。このような理学療法教育の歴史は、専門家として自立・活動していくための心構えを教授することの重要性を示していたように思える。近年、医療従事者の人間性・倫理観や医療技術の未熟さの問題などが指摘されるようになった。理学療法教育においてもこのことへの対応が必然である。大学には、学生がもつ可能性や能力を最大限に引き出すサポート体制がある。学生諸君には、最初に治療として、人の身体に触れること、「人生の岐路に立っている対象者への対応」の重大さを認識していただきたいと願う。

作業療法学科長 古川昭人教授



プロフィール
 熊本県出身。国際医療福祉大学大学院修了。平成十年より本学で教鞭をとる。(社)日本作業療法士協会副会長・常務理事、第二十九回日本作業療法学会会長、作業療法士国家試験委員などを歴任。専門分野：地域ケアシステム論。担当科目：リハビリテーション概論、作業療法概論他

九州におけるリハ医療の歴史は古く、先人達の業績も高い。リハの陽は西から昇る」と言われた程である。OT養成の現況を見ると、九州では二六校一二九五人の養成定員であり全体の約二〇％を占める。そのうち福岡県は一校六六〇人で、大阪・東京に次ぐ激戦区といえる。

リハ学部は、九州初のOT、PT両学科を備えた私大の四年制大学の開設であり、開学の意義や教育の独自性・特性が求められる。幸いにも近隣に関連病院・施設を備え、急性期から在宅支援までの継続的なリハサービスを展開する臨床フィールドを有している。

リハの本質的なサービスである生活機能支援のための理論と適用技術の習得を目的に、障害者との多様な交流体験活動を基にした高い実践力の育成を目指していきたい。学生に誇りと愛着を持ってもらう教育態勢の構築に心がけたい。「夢と理想がない教育環境には未来と発展はない」の心構えで教員・学生ともに大学を創り上げて行きたいと考えている。

医療経営管理学科の学生が学会発表

第三〇回日本診療録管理学会学術大会が幕張メッセ国際会議場（千葉県）で開催（平成十六年九月十六日（木）～十七日（金））され、本学医療経営管理学科四年の菊池優子（鳥羽ゼミナール）、吉田希（鳥羽ゼミナール）の両名が医師・コメディカル同様、一般演者として発表を行った。

菊池は「情報提供業務の重要性について」医療機関における医療情報活用の有益性」の中で、診療情報管理士業務の一つである情報提供作業の重要性に着目し、現状では多くの医療機関でこの作業に割いている時間が比較的短く、他職種からの要求に十分応えられていないこと、また、情報の提供先も院内が多く、これからは患者に還元すべきであるとの提言を行った。吉田の「医療の質と組織体制の関連性」診療情報管理部門の位置付けからみた機能・役割」は、各医療機関で診療情報管理士が所属する組織体制とその業務内容の関連性に注目し、これを分類したものであった。院内で独立して診療情報管理業務を行うことができる環境にあるのか、あるいは医事課などの兼務に近い環境に置かれているのかを組織体制の視点から分類し、この体制の違いによって診療情報管理士の業務内容に大きな違いがあることを明らかにした。

これらの発表は、鳥羽ゼミナール現四年生全員が協力して行った全国の医療機

関を対象としたアンケート調査や多くの医療機関でのタイムスタディー結果をもとにしたものである。当日、会場を埋めた聴衆の反応は、後日寄せられたデータ利用希望の数と医療機関からの求人数によって推し量ることができた。

（医療経営管理学科助手 磯伸彦）

診療情報管理士試験結果報告

診療情報管理士（日本病院会等主催）卒業試験が平成十六年九月十九日（日）に実施され、同年十一月にその結果発表があった。本学は指定校としてはじめての試験であったが、受験者一七名中一六名の合格者を出した。これは全国の指定校の中で第二番目となる好成績であった。

診療情報管理士の業務は、単に診療情報の管理にとどまるものではない。診療行為によって発生した診療情報の有効活用により大きくかわる業務である。つまり、必要不可欠な診療情報を迅速・確実に収



第61回認定証授与式会場にて卒業生や鳥羽克子教授と

集し、適切に管理・保存すること、そして、これらが必要な時に医療提供者や患者様に提供し、診療に役立てること、すなわち、医療の質の向上に役立てるという重要な責務の一翼を担っている。

今回の高い合格率は、四年生の数年間にわたる努力の結果といえよう。いずれの合格者も試験対策講座や模擬テストにしっかりとついてきた学生であった。後輩達がその後についてくれることを期待したい。

（医療経営管理学科助手 磯伸彦）

とちぎ大学連携サテライトオフィス主催の学生発表会で本学参加者全員が入賞

十月十六日（土）、とちぎ大学連携サテライトオフィス主催による学生発表会が、とちぎ産業創造プラザ（宇都宮市刈沼町）において開催された。とちぎ大学連携サテライトオフィスとは、栃木県内の大学と企業との連携をコーディネートする組織で、大学に蓄積されている学問的知識・技術・情報と企業が持っている実践的な知識・技術・情報を結びつけ、そこから県内企業との共同研究のきっかけを作ることを目指しており、栃木県内の一三の大学・高等教育機関による運営協議会が運営している。学生発表会も、この一環として開催された。産・官・学が連携し、県内一三の大学が集合、日頃の研究成果を発表するものとしては県内初の試みであった。



金賞を受賞した関根貴之さんの発表

発表会は、経営・経済・デザイン系、工業・農業系、医療系の三分野ごとに、壇上から、スクリーンを使用し口頭で発表する形式と、ポスターセッションによる展示に分かれ催された。

本学からは壇上からの発表に、医療経営管理学科四年大野珠未さんの「医療法人の持分放棄について」、医療経営管理学科四年関根貴之さんの「タイムスタディを基にした、療養病棟職員の適正配置」、大学院保健医療学専攻博士課程一年金尾智子さんの「低線量X線照射がショウジョウバエの発生分化に及ぼす影響」が参加。また、ポスターセッションには看護学科四年浅野めぐみさんの「歯科治療を受ける小児への絵本を用いたプリパレーション効果」が参加した。参加各大学の熱のこもった発表に、会場につめかけた多くの参加者も真剣に内容を耳を傾けていた。

産・官・学の代表から構成された審査員による審査の結果、金賞に「タイムスタディを基にした、療養病棟職員の適正配置」、銀賞に「低線量X線照射がショウジョウバエの発生分化に及ぼす影響」、奨励賞に「医療法人の持分放棄について」が入賞。ポスターセッションでは「歯科治療を受ける小児への絵本を用いたプリ

パレシオン効果」が入賞し、本学の参加者は全員入賞という成績となった。産・官・学が連携し、県内のさまざまな学部・学科の学生が一堂に会し、日頃の研究成果を発表し合う機会がもたらされた。今後の研究活動にもいい刺激になったものと思われる。

（教務課 大野節夫）

私学会議開催

第三十回全国私立診療放射線技師養成施設長会議（以下私学会議）が、十一月十二日（金）当番校である本学にて開催された。私学会議は、全国の私立の大学短大、専門学校二十五施設から代表者が参加し、いろいろな問題について情報を交換するのが目的の会議である。

五〇～六〇名が参加する会議では全員の発言機会が少ないため、今回は分科会形式を取り入れ、より深くきめ細かい情報の交換ができるよう試みた。

国家試験 成績不振者対策、就職 臨床実習、専門学校における教育の五テーマについて、それぞれのテーマに関心のある一〇～一四名が話し合った。時々雨のばらつくあいにくの天候、た



私学会議開催、谷学長の挨拶

つたが、全体会議は棟の多目的ホール、分科会は衛星放送サテライト教室と演習室、記念撮影は学生談話室、懇親会はカフェテリア二階と本学の施設をフルに使用。谷学長、放射線・情報科学科の教員はもとより事務局のメンバー他多くの方々の協力を得、無事終了することができた。参加者の評判もよく成功したと考えている。協力していただいた方々に深く感謝している。

（放射線・情報科学科教授 熊野信雄）



分科会での情報交換

第一回臨床試験福岡ゼミナー開催

十一月十三日（土）、十四日（日）福岡国際医療福祉学院（福岡市中央区天神）に於いて、第一回臨床試験福岡ゼミナーが開原大学院長出席のもと開催された。これは好評を得ている「大学院乃木坂スクール」の福岡サテライト版として企画され、八〇名の受講者を得て盛況であった。

現在臨床試験に関わるトピックとして大分大学病院長 中野重行教授より「医療社会における臨床試験の意義」、岡山大学医学部附属病院薬部部長、五味田裕教授より「治験ネットワークの現状と課題」、東京大学クリニカルバイオインフォマティクスコ

集し、適切に管理・保存すること、そして、これらが必要な時に医療提供者や患者様に提供し、診療に役立てること、すなわち、医療の質の向上に役立てるという重要な責務の一翼を担っている。

今回の高い合格率は、四年生の数年間にわたる努力の結果といえよう。いずれの合格者も試験対策講座や模擬テストにしっかりとついてきた学生であった。後輩達

ニツト、山崎力教授より「臨床試験におけるCRCの重要性」について基調講演を頂いた。また福岡を拠点に活躍されている医療法人相生会理事長 浦江明憲先生より、「第相試験の現状」と課題、臨床試験やCRCの教育という視点から、北里研究所 青谷恵利子先生より「米国のCRC教育」、本学大学院臨床試験研究分野長、田中俊一教授より「臨床試験の大学院教育について」の講演を頂き、私も「新しいCRCのトレーニング方法の開発」と題し、講演を行った。

総合討論では、ノイエス株式会社代表取締役 天本敏昭先生、シミック㈱臨床教育研修部長 塚田淳彦先生、メットライン㈱チーフCRC、天木静子先生にもパネリストとしてご参加頂き、臨床試験の現状と課題と臨床試験の未来とCRC教育について熱心に討論、非常に有意義なセミナーとなった。最後に福岡サテライトキャンパスをはじめ高木病院など本ゼミナーをご支援して頂いた関係者の皆様に感謝いたします。

（大学院臨床試験研究分野助教授 北川明）



八〇名の受講者で盛況となったセミナー

休息をはさみながら午前九時から午後五時まで発表と熱い質疑が展開された。

一年かけて取り組んできた研究テーマは、ミクロはラットの血糖値に関するものから、マクロは県内の臨床における調査まで非常に多岐にわたり、学生の興味の幅広さを反映していた。昨年度から導入されたポスター発表は途中、学長も見学にみえた。

プレゼンテーションは、聴衆の心をつかもうと工夫を凝らしており、発表を見慣れているはずの百戦錬磨の教員たちが感心することもしばしば。中には「修士レベル」と評価される発表もあった。

最終学年、実習をはさみながらグループで研究を仕上げていく間に、さまざまな実験上の障壁や意見の衝突があるのは毎年のことである。ただ、その中でサイエンスをベースとする論理の一端に触れ、発表や論文という形で仕上げていくことを通して、改めて学問のおもしろさを知った人も多いはず。指導に関わった教員として、彼らがこの経験を卒業後も活かしていつてくれることを望んでやまない。

（理学療法学科助教授 谷浩明）

理学療法学科第七期生の卒業研究発表会開催

発表会は、経営・経済・デザイン系、工業・農業系、医療系の三分野ごとに、壇上から、スクリーンを使用し口頭で発表する形式と、ポスターセッションによる展示に分かれ催された。

本学からは壇上からの発表に、医療経営管理学科四年大野珠未さんの「医療法人の持分放棄について」、医療経営管理学科四年関根貴之さんの「タイムスタディを基にした、療養病棟職員の適正配置」、大学院保健医療学専攻博士課程一年金尾智子さんの「低線量X線照射がショウジョウバエの発生分化に及ぼす影響」が参加。また、ポスターセッションには看護学科四年浅野めぐみさんの「歯科治療を受ける小児への絵本を用いたプリパレーション効果」が参加した。参加各大学の熱のこもった発表に、会場につめかけた多くの参加者も真剣に内容を耳を傾けていた。

産・官・学の代表から構成された審査員による審査の結果、金賞に「タイムスタディを基にした、療養病棟職員の適正配置」、銀賞に「低線量X線照射がショウジョウバエの発生分化に及ぼす影響」、奨励賞に「医療法人の持分放棄について」が入賞。ポスターセッションでは「歯科治療を受ける小児への絵本を用いたプリ

医療福祉学科卒業論文発表会

十一月十九日、医療福祉学科の卒業論文発表会が行われ、五期生一〇八名が大学の学びの成果を発表した。論文のテーマは、高齢者の虐待要因の分析や知的障害者の雇用問題、医療ソーシャルワーカーの専門性をとりあげたものなど非常に幅広く、学生の関心の広がりを感じられた。また調査や事例の分析などを行い、実態に即してまとめられた論文が多かった。日頃自分の専門以外の領域については、あまり深く知る機会のない学生にとって、様々な社会福祉実践に触れるよい機会であったろう。

この発表会には三年生も全員が参加して、次年度には自分達が取り組むことになる卒業論文に、真剣に聞き入っていた。七つの教室に別れて行われたが、どの教室も活発な質疑により、緊張感のある中で進行されていた。



研究・発表することの意味を、改めて知るいい機会となった卒論発表会

発表会の準備期間中、四年生には「できれば質問は出ない方がありがたい」といった、消極的な姿勢が目立っていた。しかし発表会終了後には、自分の発表に質問や意見が出され、それに必死で答える中で、不足や誤りに気づいたり、自分の考えが深められたという感想が、安堵の声と共に多く聞かれた。研究し発表することの意味を、改めて知る機会となったようで、こうした経験が卒業後に現場で生かされることを期待したい。

(医療福祉学科講師 永野なおみ)

看護学科公開学習会 シンポジウム 「子育てと危機 子供とどう向き合つか」を開催

十一月二十日(土)、子育てと危機、子供とどう向き合つか」をテーマに、四名のパネリストを招き、シンポジウムを開催した。少子化、核家族化がもたらす影響として家族の絆が希薄となっている現実がある。それを直視し、どのように大人が子供と向き合い関係を築いていくか、その手がかりを参加者と共に考える学習会である。

パネリストは臨床心理士の立場から鈴木宏子氏(東京都教育相談センター)、養護教諭の立場から三森典子氏(黒羽小学校養護教諭)、親の立場から村松由紀氏(本学看護学科助手)、看護師・保健師の立場から松下山子氏(本学大学院助教)の四名。

参加者は招待者六名、子供を持つ母親を中心とした地域住民二〇名、将来の母・父となる学生・大学関係者一六名の総数四二

第3回医療経営戦略セミナー開催 (医療経営管理学科主催)

那須降ろしの寒風が吹き荒れた昨年十二月十八日(土)、大田原キャンパスにおいて医療経営戦略セミナーを開催した。本セミナーは日頃の研究成果を地元の医療福祉施設に提供しようとする医療経営管理学科が主催したもので、一昨年十一月に第一回セミナーを開催して以来三度目の開催になる。当日は地元栃木県北や福島県、茨城県や東京などの三六医療福祉施設から五四名の参加があり、教員や学生、本学科卒業生も加わって、総勢一〇〇名以上が集う盛況なセミナーとなった。

今回のセミナーにおいては、「平成十八年度診療報酬・介護報酬同時改定を予測する」という壮大なテーマを掲げた。まず本学科の水巻中正学科長が、現状の介護保険制度の問題点と将来構想を示した。次に高橋泰教授が、同時改定が今後の医療提供制度改革に与えるインパクトを示し、DPCの解説を交えながら近未来のビジョンを描いて見せた。最後に菅原琢磨講師が、実証的なレセプト分析を元に、医療経済学的視点から介護保険と老人保健の利用関係を分析した。

セミナー終了後の参加者アンケートでは回答者の八割以上から、セミナーの内容に興味深い、仕事に役に立つという評価をいただいた。アンケートのコメントでは、「とてもおもしろく聴いた」「勉強になった」等の回答とともに、「テーマが政策的に難しいものだけに(講演だけでは)中途の感じがする」といった意見が示すように、具体的

国際医療福祉大学 特別後援「よみつり医療福祉フォーラム」開催



参加者からは、現状に照らした質問や意見が相次いだ

パネリストの話し、「子育てが怖い」「近所の子供の様子を見た時、今はそつとしておいたほうがいいのか、見守るのか?危機の境目がわからない」など、参加者から現状と照らし合わせた質問や意見が相次ぎ、真剣な討論が続いた。二時間三〇分の予定時間はあつという間に過ぎてしまった。将来の日本を背負う子供達とどのように向き合つかを考えさせられる現実的で意義深い内容であった。

最後に、中西睦子学科長より「自立していく子供に対しては「ほめること」の意味と意義が語られ公開学習会は興奮の余韻を残しながら終了した。

(看護学科講師 岩坂信子)

国際医療福祉大学の特別後援によるフォーラム「よみつり医療福祉フォーラム」開催

国際医療福祉大学の特別後援によるフォーラム「よみつり医療福祉フォーラム」パネラーシップという視点、これからのリハビリテーション(読売新聞西部本社主催)が、十二月十一日(土)、福岡市・天神



各中継点では聖火リレーがスムーズにつながるよう、多くの本学学生ボランティアが活躍、大会を支えた

当日は天候にも恵まれ、多くの方が沿道に駆けつけ盛況であった。なによりアスリートの方々のさわやかな笑顔が印象的であった。

「スペシャルオリンピックピックス」の目的は、障害をもつ人も持たない人も、日常的なスポーツ活動を通して健康の増進を図り、地域の中で生きがいを見つけ、地域あるいは世界中のアスリートやボランティアとの交流を通して心のバリアフリーを実現することである。

今回のイベントを機に、この那須野が原でも、スペシャルオリンピックピックスの活動が広がり、定着することを願いたい。

(医療福祉学科助手 大石剛史)

平成十六年度 大学院研究報告会 (博士課程一、二年生)開催



熱心に聞き入る参加者達

の西鉄ホールの開催された。リハビリテーション分野の専門家や高校生、一般など約四五〇名が講演やパネルディスカッションに耳を傾けた。第一部は野球評論家・村田兆治氏による「人生先発完投!怪我からの復帰・マウンドへの道」と題した基調講演。アメリカで受けた右ひじの手術を乗り越え第一線に復活したリハビリテーションの体験や、五五歳の今も一四一kmの球速を維持するため、腹筋や背筋を鍛える運動を続けているという話をされ、実際に毎日実践している柔軟体操も披露。参加者達は、村田氏の優れた身体能力に改めて感心させられた。また、観客が両手を構えた的に、舞台上から硬球を投球するパフォーマンスでは観客が難なくボールをキャッチ、会場から大きな拍手が沸いた。

パネルディスカッションでは、杉原素子保健学部長や丸山仁司理学療法学科長、和田秀樹教授、瓜生田昇車椅子バスケット選手らリハビリテーションについて討議。理学療法士や作業療法士といった専門家のサポートや家族、友人など、サポートを行う人の重要性について熱心な議論が繰り広げられた。

今回のフォーラムの内容は、九州地区の読売新聞にも掲載。四月に開設するリハビリテーション学部の知名度アップに大きく貢献した。

(リハビリテーション学部 設置準備室 原田千香)

は昨年度初めての修了生を出した。その後、徐々に種々の制度が充実し、それだけ審査なども厳しくなりつつある。そうした中で、研究報告会は学生にとって自分の研究のレベルを知るための重要な場になっている。

十二月十九日(日)、東京サテライトキャンパスにて開催された博士課程一、二年生を対象とした発表会は、最初に開原成允大学院長の挨拶があり、特に「自分の思いを研究に生かす」ことの重要性を強調しておられた。それに続いて、発表が三つの教室で平行して開始された。(聴講は他のキャンパスでも可能とした)発表数は全体で四七あった。我々の大学の特徴である領域・分野の「多様性」を反映して、福祉や医療に関わる経済、制度、行政、生理、解剖、運動、音声、言語、工学など非常に幅広い内容にわたり発表があった。もちろん、留学生の発表もあり、そこでは日本国内に止まらず各出身国に関する研究もあった。各教室には数十人の学生や教員が入り、入りきれずに廊下にまでみ出した教室もあった。

活発な議論が行われていたが、内容的には博士課程を満たしていないものも見られ、今後いかにして、質を高めていくことも課題と感じられた。

(大学院福祉援助工学分野教授 田中繁)

平成十六年度 大学院研究報告会 (博士課程一、二年生)開催

国際医療福祉大学大学院の博士課程で

TOPICS

新潟県中越地震 ボランティア活動

国際医療福祉大学では、A.L.L.とちぎ(とちぎボランティアネットワーク)が企画した新潟県中越地震被災地復興支援に九名の元気アップ・癒し隊が参加した。参加学生は医療経営管理学科二年大河内薫梨を中心とする五学科の一・二年生(男子四名、女子五名)の学生で、過去に自ら被災しボランティアの支援を受けた経験を持ち、その時の恩返しをしたいと集った有志である。ボランティア活動の拠点はA.L.L.とちぎが選定した小千谷地区総合体育館での活動であるが、まだ余震が続く十一月五日(金)午後十時、A.L.L.とちぎで準備したマイクロバスに分乗し西那須野町にあるアジア学園の支援者十名とともに大田原市を後にした。目的地に近づくと、倒れかかった電柱や道路の隆起、亀裂、地割れが目立つようになり、全・半壊した家屋もあり、地震の大きさを物語っていた。乗って行ったマイクロバスで僅かばかりの仮眠を取っている間にも余震は続き、危険地域であることを再認識させられた。市内のほとんどの家に危険度を示す青、黄、赤の三段階レベル分けされた警告の張り紙があり、いたる所に制服姿の警察官や自衛隊の姿が見られ、異様な雰囲気包まれていた。また夜が明けやらぬ午前五時、朝食の炊き出しからボランティア活動が始まった。癒し隊はプチ喫茶店を開店し、コーヒー、甘酒、緑茶、麦茶七〇〇杯を準備したが、コーヒーに人気が集り、瞬く間に完売となった。慣れない集団生活の中で、心身ともに疲れ果



国際医療福祉大生によるボランティア活動(下野新聞社提供)

てた被災者の姿に、国際医療福祉大学「元気アップ・癒し隊」は、(早く元気に笑顔を返して)もらいたい)との気持ちを一杯のお茶やコーヒーに込め、被災者のテントを回った。道路が寸断され、まだ行政の手が届かない地域には物資搬送のボランティアも行った。被災者の「有難うの一言が無性に嬉しく、むしろ癒し隊が癒される思いがした。被災地ではまだ学校が始まっていないため、子供達の姿が多いが、遊び相手や場所が無く、ストレスが溜まっている。避難している体育館には仕切りが無い、プライバシーは全く保護されていない。また、ごみ問題も大きな課題である。被災地の一日も早い復興を祈り願っています。(学生課長 宮下貞男)

ボランティア委員会提唱の本学学生・教職員による「新潟県中越地震災害義援金」結果を報告いたします。
金額 二二七、九四八円
「国際医療福祉大学 学生・教職員一同」として、十二月二日(木)大田原市社会福祉協議会に届けました
ボランティア委員会事務局 学生課

なお、国際医療福祉大学・高野会グループ(大学ボランティア委員会を除く)は、十二月二十四日、新潟県中越地震災害義援金一〇九〇、三三三円を日本赤十字社へ届けています。

Poetry Recitation Contest 第九回学長杯スピーチコンテスト開催



一位に入賞した橋本真奈美さんのスピーチ

ミュージカル「キャッツ」の中の1曲やロック、宮沢賢治の「雨ニモマケズ」の英訳など、出場者の英詩は実に様々。各自衣装・照明にも凝り、英詩から感じ取った世界を全身で表現しながら朗読した。会場からは「今の詩よく分った」「胸にささる」と感想や溜息が聞かれ、聴衆の心を魅了した。全員のスピーチが終わると、五人の審査員が審査のため別室へ移動。その間、ハンドベル部がSent Nightなど数曲を演奏、会場を和ませた。

審査項目はスピーチの発音はもちろん演出や感情表現までも含まれた。その結果、一位にRT学科二年橋本真奈美さん、二位、ST学科一年山本彩香さん、三位、RT学科一年新田見耕太さんが決定、計一〇名が入賞を果たした。

一・二・三位の入賞者には、学長からトロフィーと、学長のサイン入り医学辞典が授与された。



演出にも工夫をこらす出場者

受賞者コメント
一位 橋本真奈美
緊張症を克服するために出場したのですが、一位になるとは思ってもいませんでした。初めての読んだ時、少年が自分を理解してもらおうとひたむきに老人に語りかけている姿、少年の孤独感に、老人が温かく受け答えている様子が目に浮かび、涙が出るほど感動しました。練習は、発音を重視し、大きな声で読む事から始め次にジェスチャーを含め、観客に気持ち伝わるように工夫しました。受賞した事でますます英語が好きになりました。

二位 山本彩香
毎日、休み時間や放課後、自分の部屋などで、五百回は声に出して練習しました。何度も練習した甲斐があり受賞できました。「よく読んで深く理解しなさい」とのアドバイスを先生からいただき、深い愛、あふれる気持ちと必死さ、ひたむきさを観客の全員に伝えようと決めました。名前を呼ばれた時には、嬉しくて涙が止まらなくなっていました。

三位 新田見耕太
練習を指導して下さった先生方、会場で熱心に聴き応援して下さいました方々に感謝したいと思います。高校卒業の時、担任の先生から贈られたこの詩のThe answer is blow in the windというフレーズに特に感動しています。戦争に疑問を抱く人が増えればもっと平和な世界になる。多くの人にぜひこの詩を知ってもらいたいと思います。

The Ninth President Trophy Contest -Poetry Recitation Contest-

氏名	学科・学年	題名
橋本真奈美	RT 2年	A LIGHT IN THE ATTIC DEAF DONALD
山本彩香	ST 2年	How Do I Love Thee?
新田見耕太	RT 1年	Blowin' In The Wind
上原美佳	ST 2年	Dover Beach
中川真里	OT 1年	RAINDROPS KEEP FALLIN' ON MY HEAD
入江容	PT 1年	Tears in Heaven
志村圭太	PT 4年	BREATHE IN THE AIR
野口都子	NS 2年	「あなたはそこに」~ You Were There ~
高水久幹	ST 1年	STRONG IN THE RAIN
伊藤潤	NS 2年	The Answer to All Prayers
吉川幸二郎	PT 4年	Up Where We Belong
小川昭仁	HS 1年	Protecting the Green Earth
菊池孝之	HM 1年	Alone
森 喜子	NS 2年	薔は花、君はその種 (THE ROSE)
志賀昌憲	NS 2年	聖書の英語"Manna"
尾崎祐一郎	PT 1年	If the World Were a Village of 100People
神田知佳	ST 1年	ミュージカルキャッツの中の"Gus:The Theatre Cat."
柿沼雅之	NS 2年	I WILL ALWAYS LOVE YOU



左から2位山本彩香さん、1位橋本真奈美さん、3位新田見耕太さん

映画の心と眼

第3回

映画祭への想い 文化遺産の継承

一つの時代を構成する「文化」は、有形無形にかかわらず確実に存在しているが、長い歴史の連続のなかでは、大切に保持されているのだろうか。

未来へ願いを込めて送ってゆく文化に対する義務は、その時代を生きる人々に課せられている。だが、往々にして時代の文化遺産に気づかず捨ててしまっているが、気がついて救う手立てがなく次世代へ送ることができないまま消滅させているものも多い。

その一つに映画作品がある。日本では、映画作品が文化遺産として定着しているとは思えない。それは、国政の心の貧困さばかりではなく私たち創る側、観る側の対応にも問題がある。

経験的には、映画のもつ「文化の本質」を広く共有し、未来へ存続させる場としての映画祭が必要である。

ヨーロッパの映画祭では、作品終映後一般の多くの観客たちが、製作者に接触を求め自然発生的に上映会場で長時間の質問、批評、意見交換が行われる。つまり、映画を生活文化の遺産として認識し追及する資質を強く感じる。

日本でも、大分の湯布院や山形で行われる比較的小さな映画祭にはこの傾向が見られる。私たちが長野県で主宰する映画祭「千曲川シネマフェスタ」は、基本的に「公開する場」をまず守り、そこから観客と共に未来への道を開くことを目的の一つにしている。その理由は、優れた映画を製作しても、作品を上映し公開する劇場や映画館が少い。また、貧しいプロダクションや個人の場合は、自主上映活動もままならない。こんな状況下では、その時代の秀作は永遠に消えてしまふことになるからだ。

結局映画は、観る側が育てる文化であり、「文化遺産」として次世代へ伝える行動は、創る者観る者が両輪となる強い志向が重要である。



第35回ベルリン国際映画祭でドイツ人ファンにつきまわり、2時間も3時間も自作品についてディスカッションを続ける諏訪監督(写真中央)。ベルリンのアカデミー・クンスト劇場のロビーで。(毎日新聞文化欄より)



「熱海DMポート ウォーキング会」開催
 熱海DMポートは当院の糖尿病患者様の集いで、講演会や調理教室などの活動を通してお互いの情報交換の場として利用されています。十一月二十七日、伊豆半島のつけ根、静岡県山田町でウォーキング会を開催しました。当日は空が澄みきった絶好のウォーキング日和。富士山を眺めながら、また当院の山田佳彦助教（内科・内分泌糖尿病）と様々な話しをしながら歩くことができました。
 総務課（担当：金森・本山）

「第三回 諮問委員会」開催
 十一月十日（金）
 諮問委員会は有識者や病院利用代表者の諮問委員から病院運営に対する様々な



水巻中正学科長による講演

「第五回 院内安全対策講習会」開催
 十一月九日（木）
 院内安全対策講習会は、院内の医療事故防止活動の一環として行っています。今回は本学医療経営管理学科の水巻中正学科長を迎え、『多発する医療事故と病院の危機管理』という演題で講演を頂きました。病院職員にとって非常に有益な内容で、講演後の質疑応答でも活発な質疑が行なわれました。当院では今後とも患者様が安心して医療サービスを受けられるよう努力してまいります。

【お知らせ】
「病院シャトルバス」ダイヤ改正のご案内
 附属熱海病院では熱海駅（第一ビル地下通路口）より病院正面玄関へ無料の送迎バスを運行しております。十一月四日よりダイヤ改正を行いました。詳しくは院内の案内板をご覧ください。

ご意見を伺う委員会、委員長は脚本家の橋本壽賀子先生が務めておられます。第三回委員会は、谷学長の挨拶の後、病院から概況（スタッフや医療機器の現状報告、患者数の推移、救急・急患の受け入れ状況、二十四時間対応可能な小児医療の充実等）について報告。また、昨年十月から始まったシャトルバスの試験運行、患者様からのご意見に対する対応、新病院への移転スケジュール、十九年二月に開設予定の介護老人保健施設等についても説明し、各委員から病院に対する意見を頂戴しました。

意見には、「開業医の先生との連携を深めて欲しい」といった病診連携に関する要望、「大病院として感染予防に積極的に取り組んで欲しい」との声の他、「スタッフが親切で丁寧な診療だった」といったありがたい感想、「心臓カテーテル検査を実施している事など、病院をもっとPRすべきである」といった積極的で大変参考になる意見もいただきました。

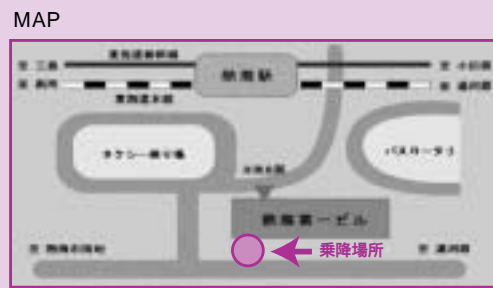
病院送迎バス時刻表

1月4日ダイヤ改正! 20分毎の運行となりました。

（熱海駅発 病院行）		（病院発 熱海駅行）	
熱海駅発時間	病院発時間	病院発時間	熱海駅発時間
8時 30	8時 45	8時 45	9時 00
9時 00	9時 15	9時 15	9時 30
9時 30	9時 45	9時 45	10時 00
10時 00	10時 15	10時 15	10時 30
10時 30	10時 45	10時 45	11時 00
11時 00	11時 15	11時 15	11時 30
11時 30	11時 45	11時 45	12時 00
12時 00	12時 15	12時 15	12時 30
12時 30	12時 45	12時 45	13時 00
13時 00	13時 15	13時 15	13時 30
13時 30	13時 45	13時 45	14時 00
14時 00	14時 15	14時 15	14時 30
14時 30	14時 45	14時 45	15時 00
15時 00	15時 15	15時 15	15時 30
15時 30	15時 45	15時 45	16時 00
16時 00	16時 15	16時 15	16時 30
16時 30	16時 45	16時 45	17時 00
17時 00	17時 15	17時 15	17時 30

第一ビル地下通路口が発着場所です。病院の玄関前が発着場所です。

（平成17年1月4日現在）



国際医療福祉大学附属熱海病院

Information Atami 1

この新しい施設に親しみやすい名前をつけてもらおうと本学学生・教職員・一般から幅広く名称を募集していた。十月三十一日の締め切り時までに一〇〇件の応募があった。どれも優劣がつきにくいすばらしい名称だったが、十一月十七日

十月周年を記念し、建設中の多目的施設の名称が「那須アスリーナ」に決定した。新施設は三月完成予定で、一階は空手・剣道・合気道・少林寺拳法・柔道などが行える「武道館」、二階は「レストラン」、三階は「弓道場」となっている。武道館・弓道場ともに練習だけでなく公式試合にも使用できる本格的な施設で、本学



完成に向け工事は順調に進んでいる

三月完成予定の多目的施設の名称が「那須アスリーナ」に決定

の管理運営委員会で審査の結果、埼玉県川口市のインテリアデザイナー石川洋氏（五五歳）の応募名称「あすリーな」（アスリート（athlete）と競技（アスリート）とアリーナ（arena）を掛け合わせた造語）を参考に、「那須」という地名を付け、力強く、親しみやすく、爽やかなイメージを持つ「那須アスリーナ」と決定した。石川氏には賞品として図書カード（五万円分）が進呈された。

学生課長宮下真男）

国際医療福祉大学クリニック言語聴覚センターでミニセミナーを開催
 国際医療福祉大学クリニック言語聴覚センターでは、県北を中心とした関連機関（病院・福祉施設・学校・幼稚園・保育園など）に勤務するさまざまな職種

の管理運営委員会で審査の結果、埼玉県川口市のインテリアデザイナー石川洋氏（五五歳）の応募名称「あすリーな」（アスリート（athlete）と競技（アスリート）とアリーナ（arena）を掛け合わせた造語）を参考に、「那須」という地名を付け、力強く、親しみやすく、爽やかなイメージを持つ「那須アスリーナ」と決定した。石川氏には賞品として図書カード（五万円分）が進呈された。

国際交流親善パーティー開催

恒例の「国際交流親善パーティー」が十二月十五日、レストラン棟二階カフェテリアで開催された。留学生、海外研修参加学生の一部、青年海外協力隊OB、海外生活体験学生など約五〇人と、学長、学科長、ホストファミリー、研修引率教員、国際交流委員など約四〇名の教職員

（言語聴覚センター言語聴覚士 内海景子）

【問合せ先】
 国際医療福祉大学クリニック・言語聴覚センター（本番・内海・落合）
 電話：〇二八七 二四 一三三三
 FAX：〇二八七 二四 一〇〇三

方々、一般の方々と、ともに学び交流する場として、今年度もミニセミナーを開催している。第四回ミニセミナーは十一月二日（火）に東京専売病院耳鼻科医師、渡邊雄介先生を招き、「声と健康」と題して講演いただいた。医師、大学教員、保育士、言語聴覚士、学生など二十二名の参加があった。渡邊先生の、手術場面や実際の臨床場面など専門的な内容や、わかりやすくユーモアたっぷりの講演に、参加者は熱心に聞き入っていた。講演後には質問が多数飛び交い、大変好評であった。今後も第一火曜日を中心にミニセミナーを開催する。



理学療法学分野 博士課程1年 ドロシータンモララさんによるフィリピンのダンス

が一堂に会した。来賓として、千保市長に代わって大武秋雄助役、大田原国際交流会から鈴木芳枝会長他が参加して下さり、楽しい一夜を過ごした。フィリピンとパラグアイのダンス、ネパール、ベトナム、中国、ケニア、日本の歌、遠藤雅幸君（NS三年）の空手演武、谷浩明先生（PT）の楽器演奏等々、国際的な余興に感動し、楽しみ、大喝采となった。締めは恒例のビンゴゲーム。教職員から集めたプレゼントを前に大興奮となった。毎年六月と十二月に行われるパーティーに、日々の忙しい勉学を一時忘れ、人と人とのコミュニケーションの素晴らしさを体験した一夜であった。
 （国際交流委員会・語学教育センター 教授 田中美子）



金婚式を迎えられた入居者と奥様



鏡開き
写真の掲載は、関係者の了承を得ております。

アレルギーという疾患は、はるか紀元前より書物に記載してありますが、アレルギーそのものの概念はこの六〇・七〇年に始まり、この一〇年余りで急激な進歩がなされています。

特に免疫・生化学に関する研究とそれに基づいた病態生理の解明により、原因抗原の認識、T_H1細胞やT_H2細胞のアレルギーにおける位置付け、B細胞による抗体の作成、感作と抗原抗体反応の関係、またアレルギーに関する各種細胞、特に肥満細胞、好酸球の役割、各種標的臓器の病態とその治療法のかかわり、さらには抗原蛋白の解明に加え、抗原交差性に関する研究など多岐にわたり特段の発展をきたしています。

特に気管支喘息に対する研究は目覚しく、その病態に適した薬物療法の開発によ

新年を迎えて
今年も平穩無事にお正月を迎えることができてスタッフ一同とても嬉しく思っております。

さて、昨年暮れには大雪に見舞われ、道路に凍りついた雪が残る寒いお正月となりました。ホームでお正月を迎えた入居者様とご自宅へ戻って家族と一緒に正月を迎えた入居者様、人それぞれに新しい年を迎えることが出来ました。

お正月早々の二日には、めでたくご結婚五〇年の金婚式を迎えられた入居者様のご家族をご招待して、記念品の贈呈とお祝いを入居者全員とスタッフが加わって盛大に行いました。いつまでも仲睦まじいお二人がとても羨ましい限りでした。

鏡開き
お祝いの催しでは、入居者のお孫様が奏でるバイオリンの音色に全員が感激し、楽しい一時を過ごしました。

入居者様全員が揃った八日には、「新年会」、十一日には、「鏡開き」を開催し、おしるこを食べながら今年一年が健康で穏やかに過ごせるように全員でお祈りをいたしました。

ある入居者様の方に今年の抱負を聞くとき、「ここに居る皆さんが健康で仲良く過ごせること」とおっしゃいました。私たちスタッフが家族と認識して頂き、健康までも気を遣って頂けるなんて、何て温かいホームなんだろうと改めて感激いたしました。

今年も入居されている方々との様々な感動あるドラマが繰り広げられ、スタッフが育てられる一年の始まりとなったお正月です。

(おわたわマロエホーム主任 大森宮子)

Information Ohtawara
おわたわ総合在宅ケアセンター

Information Sannoh
山王病院



山王病院 山王病院小児科 鈴木五男

アレルギーへの取り組みとその展望

また各種アレルギー疾患に対するガイドラインも再度の再版により、より一般に理解されてきたのは、より大きな発展をもたらしていると言えます。

私は昨年九月に山王病院に赴任し、これまで二十数年臨床と研究を行ってきたアレルギー専門外来を立ち上げようとしており、今後、山王病院の柱のひとつになるような外来を目指して働きかけたいと考えております。関係各位のご協力をお願いいたします。

アレルギー患者は年々増加し、小児でも何らかのアレルギー疾患を持つ人は、二〇〜三〇%いるといわれ、これまでの経験と知識をより多くの患者様に伝えていきたいと考えております。さらに、よりEBM (Evidence Based Medicine) に基づいた治療に加え、より多くの患者さんに情報を伝えられる講習会なども企画したいと考えております。



澄んだ音色がロビーいっぱいに響き渡りました。

Information Nishinomiya
国際医療福祉病院

十二月二十五日
クリスマスコンサート開催

十二月二十五日(土)午後一時より、一F総合ロビーにおいて「国際医療福祉大学ハンドベル部」によるクリスマスコンサートが行われました。約一五〇人の外来患者様や、入院患者様に来ていただきました。

「聖しこの夜」等クリスマスにちなんだ曲を六曲演奏。ハンドベルは、その音色から「天使の歌声」と呼ばれているそうです。ベルの鳴らし方によりびっくりするほど、様々な音色が出来ます。大学より舞い降りた一三名の天使達のリズムカルで息のあつた演奏は、しばしの間別世界に誘ってくれたと患者様にも大好評でした。

漢方専門外来のご案内

麻酔科部長 柏田晴之

寒い日が続きますが、皆さま風邪などひいておられませんか? 風邪の引き始めにも、こじらせた風邪にも漢方が良く効くことをご存知でしょうか?

二十一世紀の医学教育に東洋医学が導入され、医師は西洋医学と東洋医学の併用あるいは使い分けを正しく実践することが求められる時代となりました。一方一般市民の皆様の健康に対する意識の高まりとともに、東洋医学ことに漢方に対する関心も大きくなってきているようです。

国際医療福祉病院では、漢方診療を希望される患者の皆さまに向けて、昨年十月から「漢方専門外来」を開設しました。漢方医学は、ひとり一人の体質にあつた診察と処方を行い、それぞれにあつた健康管理と生活指導を心がけることを基本としています。西洋医学では改善しない症状に、漢方が劇的な効果を示すことは少なくありません。

「漢方の特徴」

1. 漢方は個人個人の体質に合わせた「証」の医学
2. 漢方では「心身全体のバランスがとれた状態が健康であり、何らかの原因でバランスの崩れた状態が病態である」と考え、どこがどうアンバランスなのか診断して、バランスを回復させる治療を行います。
3. 病気の部分だけでなく心身全体を診て、個人の体質や体調(「証」)に合わせて処方します。そのため、同じ

症状であっても、心身・体質の相違などによって異なつた漢方が処方されます(同病異治)。

(2) 病邪(例えば、かぜウイルス・細菌・がん細胞)そのものを攻撃するのではなく、身体の自然治癒力の回復あるいは向上を図り、心身を通して間接的に病邪を排除します。

2. 漢方の予防医学的アプローチ「未病を治す」

漢方には「未病」という概念があり、「黄帝内経」「傷寒雑病論」などの古医書には「上工は未病を治す」という記載があります。「上工」とは上手な医者、「未病を治す」とは「未だ病らざるものを治す」ということで、症状が現れて病気になる前に予防したり、わずかな異常をとらえて治療するという意味の他、すでに発病していても更に進行したり他の臓器に及ぶことを防ぐ治療を行う、という意味があります。このような考えに基づくと漢方では、西洋医学的検査には表れない心身の異常をとらえて治療することが出来ます。

3. 漢方は複数の生薬の組み合わせ

西洋薬は精製された単一の薬剤であるのに対し、漢方は何種類かの生薬の組み合わせで出来ています。一つの処方でも複数の症状を改善することが出来ます。

漢方診療の外来担当医は表の通りですがここに示すように漢方の得意分野は実に身近な病気が多いのです。診察ご希望の方は外来受付でお気軽に「相談下さい」。

外来日、外来担当医・漢方専門科目一覧表 外来受付時間 午後 13:30~16:00 診療時間 午後 14:00~17:00

曜日	外来担当医	専門科目	疾患例
月	桃谷	小児の漢方	過敏性腸症候群、喘息、疳、他
火	山田	産婦人科疾患の漢方	月経不順、月経困難症、更年期障害、他
水	柏田	痛みの漢方・漢方全般	頭痛、肩凝り、頸肩腕痛、腰下肢痛、神経痛、冷え、のぼせ、多汗、風邪、下痢、便秘、不眠、虚弱体質、肥満、アトピー性皮膚炎、他
木	柳田	不妊症の漢方	不妊症、月経不順、他
金	石田	耳鼻科疾患の漢方	メニエル、めまい、鼻アレルギー・花粉症、他



勉強するなら、「医療福祉チャンネル774」

医療福祉チャンネル774では、衛星放送スカパーフェクTV! 774チャンネルで、医療・福祉・健康・介護に関する教育、教養、情報番組を放送!

国際医療福祉大学アワー

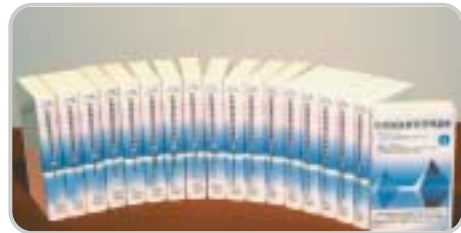
国際医療福祉大学の年間行事などを特集。先生方のインタビューやサークルのレポート、大学紹介などを織り交ぜた大学情報番組です。今年が開学10周年を記念して実施される様々な行事を取材放送していきます。学生の方々はもちろん、ご父兄の方々も是非ご視聴賜りますようお願い申し上げます。



平成15年度 国際医療福祉大学卒業式

医療福祉経営管理講座

医療福祉施設の中堅及び幹部スタッフに照準を合わせた研修講座。国際医療福祉大学医療経営管理学科の教員を中心に有名専門講師陣による実践的な講義番組。経営戦略から個人情報保護、財務会計、安全管理、感染管理など幅広く網羅された講義内容。好評放送中! また、放送番組を全18巻ビデオセットとして販売しております。



「医療福祉経営管理講座」各30分・ビデオ全18巻セット
価格 ¥210,000 (本体価格 ¥200,000)

医療福祉チャンネルを見るには

「医療福祉チャンネル774」は衛星放送スカパーフェクTV! の774チャンネルでご視聴いただけます。ご視聴には、スカパーフェクTV! 専用アンテナ & チューナーをお部屋のテレビにつなぐだけ!

視聴料・・・月額2,100円(税込) / 法人契約: 5,250円(税込)

(このほかに、スカパーフェクTV! 加入料・・・2,940円(税込・初回のみ)・スカパーフェクTV! 月額基本料・・・410円(税込)がかかります。)

IUHW学生、マロニ会会員、教育後援会会員の皆様は、特別視聴の制度があります。下記までお問い合わせ下さい。

ビデオのお申し込み・視聴に関するお問い合わせは

フリーダイヤル 0120-870-774(お客さま係) Eメール info@iryoufukushi.com ホームページ www.iryoufukushi.com

IUHW 国際医療福祉大学出版会新刊書のご案内

全13科目および実技を1冊にまとめたコンパクト版

「介護福祉士受験講座2005サブノート」



著者：高橋統一・東口重信・松本和則他
国際医療福祉大学/A5判298頁ソフトカバー
発行・販売：医療福祉チャンネル774
定価：4,500円
(税込・送料サービス)

試験対策「必携」シリーズの第2弾

「必携 社会福祉士国家試験対策」



著・監修：国際医療福祉大学医療福祉学科/A5判約360頁ソフトカバー発行・販売：国際医療福祉大学出版会/医療福祉チャンネル774
定価：4,500円
(税込・送料サービス)

これから社会福祉学を学ぼうとするすべての初学者のための入門書

「入門・社会福祉学」



編著：国際医療福祉大学医療福祉学科/監修：鈴木五郎/医療福祉学部長・学科長・教授/B5判392頁
定価：本体2,940円
(本体2,800円+税5%)

医療・経営管理職育成のためのバイブル。待望の四訂版!

「四訂 医療・福祉経営管理入門」



編著：国際医療福祉大学医療経営管理学科/B5判540頁ソフトカバー
定価：本体3,990円
(本体3,800円+税5%)

ご注文は、国際医療福祉大学出版会まで

〒107-0052 東京都港区赤坂8-5-34 島藤ビル 電話03-5414-6098 FAX03-5414-6096

E-mail: press@iuhw.ac.jp http://press.iuhw.ac.jp

デザイン：アイ・デプト

発行：国際医療福祉大学

編集部

【東京】
〒107 0062
東京都港区南青山一 一四一
アミテイ乃木坂三階
電話 〇三 三四七五 五〇六一

【大田区】
〒324 8501
栃木県大田原市北金丸二六〇〇一
国際医療福祉大学内
電話 〇二八七 二四 三〇〇〇



IUHW 短信 入試日程(12月実施分)のお知らせ

- 入試事務室より - IUHW Note

11月24日宇都宮会場を皮切りに、25日水戸、26日郡山、29日高崎の4会場で、高等学校の先生方を対象とした高校教員向け薬学部説明会が開催された。いずれの会場も本学の薬学部に期待を寄せる多くの高校の先生方が、熱心に耳を傾けていた。

11月30日(火)本学L棟3階多目的ホールで、学生の臨床実習教育や、就職等で協力をいただいている医療機関、福祉施設の関係者を招き、日頃の感謝と引き続きの協力を要請するため、「感謝のつどい」理事長、学長、各学科長の出席のもと行われた。

フジテレビジョン報道局解説委員・キャスターで本学客員教授でもある黒岩祐治先生のプロデュースによる公開講座「いのちの社会学2」が11月4日～12月16日まで毎週木曜日に本学大講義室(F101教室)で開催された。ゲストにはジャーナリストで元ニュースキャスターの櫻井よしこ氏、元大蔵省財務官・榊原英資氏、前三重県知事・北川正恭氏など、多彩な顔ぶれが各回の講義を行った。同講座は、大田原市市制五十周年記念事業としても位置づけられており、延べ4,029人が参加した。